

2027年4月入学 大学院農学府修士課程学生募集要項
の請求方法について

(注意) この PDF ファイルを印刷して出願に用いることはできません。

募集要項の請求方法は「窓口での請求」または「郵送による請求」となります。

出願を希望する方は、必ず募集要項の冊子を入手し、綴じ込みの所定用紙を用いてください。

○ 窓口での請求

府中地区事務部学生支援室入学試験係（農学部本館1F）の窓口にて配布します。ご自由にお持ちください（土日、祝日を除く8:30～17:15まで）

○ 郵送による請求

学生募集要項の請求

封筒の表面に「農学府修士課程学生募集要項請求」と朱書きの上、以下を同封して請求してください。

- 郵便番号、住所、氏名、電話番号を記入したメモ
- 定形外郵便物規格内250g分の切手を貼った返信用封筒（角2号・A4サイズ）

◆ 速達を希望する場合は速達料金を追加してください。

◆ **返信用封筒の表面に返信先の郵便番号、住所、氏名を記載してください。**

◆ 切手不足の場合、請求の受領、請求物を送付することができません。十分に注意してください。

○ 過去3年間の試験問題のコピーについて

著作権処理の関係上、**著作権に係る箇所を空白にして公開しています。**

以下のページで閲覧可能です。

<https://web.tuat.ac.jp/~akakomon/nougakuhu/index.html>

【請求先および問い合わせ先】

〒183-8509

東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学 府中地区事務部学生支援室入学試験係

TEL: 042-367-5659（土日、祝日を除く9:00～17:00まで）

2027年4月入学

東京農工大学大学院農学府
修士課程（第2次）

学 生 募 集 要 項

（社会人特別選抜を含む）

東京農工大学

重 要

本要項に記載した情報は令和 8 年 (2026 年) 9 月時点の内容です。

本要項の公開後であっても、選抜方法や日程に変更が生じる可能性があります。

出願にあたっては、必ず本学ホームページにて最新の情報を確認してください。

【本学ホームページ「重要なお知らせ」 URL 及び QR コード】

https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi_daigakuin/info/



2027年4月入学

東京農工大学大学院農学府修士課程（第2次）学生募集要項 （社会人特別選抜を含む）

入学生募集の基本方針（アドミッション・ポリシー）

教育研究の目的、および人材養成の目的をふまえ、農学府は、以下のような人材を求める。

1. 幅広い視野と専攻分野を学ぶための十分な基礎学力をあわせもち、高い倫理性を身につけた者。
2. 地域社会や国際社会における食料・生命・資源・環境など様々な問題に関心を持ち、研究を通じて、主体的に考え、他の人と協力・協働して、研究課題の解決や社会の発展に貢献する意識の高い者。
3. 人類が直面している諸課題に対し、多面的に考察・判断して研究課題を自ら設定する事ができ、その課題に果敢に挑戦する意欲のある者。
4. 日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者。

1. 募集人員

専攻名	コース名	プログラム名	入学定員	募集人員
農学 専攻	生物生産科学コース	生物生産科学プログラム	174人	各プログラム 若干名
		生物制御科学プログラム		
	応用生命化学コース	応用生命化学プログラム		
	自然環境資源コース	環境資源物質科学プログラム		
		物質循環環境科学プログラム		
		自然環境保全学プログラム		
	食農情報工学コース	食農情報工学プログラム		
	地球社会学コース	地球社会学プログラム		
	国際イノベーション 農学コース	国際イノベーション農学 プログラム		

2. 出願資格

〔一般選抜〕

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び入学する月の前までに卒業見込みの者。
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び入学する月の前までに学位授与見込みの者。
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び入学する月の前までに修了見込みの者。
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び入学する月の前までに修了見込みの者。
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして、当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び入学する月の前までに修了見込みの者。
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は

関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び入学する月の前までに修了見込みの者。

※出願資格の(6)に該当する者は、2026年9月24日(木)までに府中地区事務部学生支援室入学試験係へ必ず申し出てください。

(7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び入学する月の前までに修了見込みの者。

(8) 文部科学大臣の指定した者。(昭和28年文部省告示第5号に該当する者)

(9) 本学府が、個別の入学資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学する月の前までに22歳に達する者。

(10) 2027年3月31日現在において、学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学し、本学府が所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者、又は外国で学校教育における15年の課程を修了し、本学府が所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者。

(注1) 大学卒業までに学校教育における16年以上の課程を有しない国の出身者等(出願資格(6)は除く)については出願審査を行うので、2026年9月18日(金)から9月25日(金)までに府中地区事務部学生支援室入学試験係へ必ず申し出てください。

(注2) (9)・(10)によって出願する者は、「出願資格(9)について」(P. 11)又は「出願資格(10)について」(P. 12)を参照してください。

(注3) その他出願資格について不明な点は事前に府中地区事務部学生支援室入学試験係にお問い合わせください。

〔社会人特別選抜〕

出願時において国公立の研究機関・試験場・教育機関等や民間企業の試験・研究機関等における2年以上の研究・試験実績等を有する者で、上記(1)から(8)のいずれかに該当する者。

3. 出願期間

窓口受付期間 2026年11月4日(水)～11月5日(木)

受付時間 11月4日(水) は午前10時から正午、午後1時30分から午後4時まで
11月5日(木) は午前10時から正午、午後1時30分から午後3時まで

郵送受付期間 2026年10月26日(月)～11月5日(木) 午後3時必着

(出願期間後に本学に到着した場合でも2026年10月30日(金)以前の日本国内発信局消印のある簡易書留の郵便に限り受理します。)

4. 出願手続

出願者は次のように出願手続を行い、受験票の交付を受けてください(郵送の場合の受験票は手続完了次第送付します)。

(1) 出願方法

志願者は下記の出願書類等を取りそろえ、持参又は郵送で提出してください。なお、郵送する際は必ず簡易書留とし、封筒の表に「大学院農学府出願書類在中」と朱書きしてください。また、日本国外から出願する場合は、必ず国際スピード郵便(EMS)で郵送してください。

(2) 出願書類等提出先：東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 TEL 042-367-5659

(3) 提出書類及び検定料

〔一般選抜〕

提出書類等	注 意 事 項		
入学志願票・写真票・受験票・入学検定料納付確認票	本学所定用紙を使用。写真は無帽上半身縦4.5cm×横3.5cm。出願前3ヶ月以内に撮影したものを写真票の所定の位置に貼り付けてください。画像加工・画像処理により、目を大きく見せたり、美白処理、顔パーツやほくろ、しわなどを修正するなどして、本人のイメージを変えることは、いかなる場合でも不適当です。		
履 歴 書	本学所定用紙を使用 ※「職歴」にはアルバイト歴は含みません。		
志 望 理 由 書 等	生物生産科学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		研究計画書 (本学所定用紙)	入学後の研究計画を記入。 A4用紙、字数は1,000字程度。
	生物制御科学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		卒業論文等の概要 (様式任意)	A4用紙1枚以内(字数は2,000字程度、図表を含めても可、両面印刷も可)とします。 卒業論文等を履修していない者は、これまでに学んできたことと入学後の研究に対する抱負を記入してください。
	応用生命化学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
	環境資源物質科学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		卒業論文等の概要 (様式任意)	A4用紙1枚 卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画を記入してください。
	物質循環環境科学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		卒業論文等の概要 (様式任意)	A4用紙1枚(字数は、1,000字程度) 卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画を記入してください。
	自然環境保全学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		研究計画書 (本学所定用紙)	入学後の研究計画を記入。 A4用紙1枚。字数は1,000字程度。
	食農情報工学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		卒業論文等の概要・研究計画書 (様式任意)	卒業論文等の概要及び入学後の研究計画または抱負を記入。 A4用紙2枚。字数は合わせて2,000字程度。
	地球社会学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		研究課題レポート (様式任意)	志望プログラムに関わる研究計画を記入。 A4用紙で字数は2,000字程度。
	国際イノベーション農学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		研究計画書 (本学所定用紙)	入学後の研究計画を記入。 A4用紙1枚。字数は1,000字程度。
成績証明書	出身(在学)大学等が作成したもの。(和文を原則とするが、英文でもよい。)		
卒業(見込)証明書	出身(在学)大学等が作成したもの。(和文を原則とするが、英文でもよい。)		

検 定 料（本学所定の入学検定料払込用紙により払込）	入学検定料30,000円：本学所定の入学検定料払込用紙で郵便局で払込みのうえ、受付局日附印が押された「振替払込受付証明書」を「入学検定料納付確認票」の所定位置に貼り付けてください。なお、「振替払込請求書兼受領証」は受領証書となります。改めて本学から受領証書は発行いたしませんので、大切に保管してください。ただし、日本政府から奨学金を支給されている国費外国人留学生は納入不要です。 （注意）「振替払込受付証明書」の受付局日附印の押印で入学検定料納付を確認しますので、入学検定料の納付は郵便局の受付窓口での払込に限ります。（ATM は使用不可。）
宛 名 票	本学所定用紙を使用。合格通知を受け取る場合の住所、氏名等（3ヶ所）を記入してください。
返 信 用 封 筒（郵送出願者のみ）	定型封筒（長形3号 12cm×23.5cm）。郵送で出願する場合は、受験票返送用として住所、氏名を明記し、郵便切手410円を貼り付けたものを同封してください。 【11月13日（金）までに、受験票が届かない場合は、入学試験係に連絡してください。】
そ の 他	①外国人の場合には、「パスポートのコピー」と「在留カードのコピー」（国内居住者のみ）を必ず提出してください。 ②証明書の氏名と現在の氏名が異なっている場合には、氏名変更を証明するもの（戸籍抄本等）を提出してください。 ③日本政府から奨学金を支給されている国費外国人留学生は国費外国人留学生証明書を提出してください。（ただし、本学在籍者は不要です。）

（注）本学所定用紙は、本冊子に綴じ込まれています。

(4) 外部試験のスコアシートなどの提出

以下のプログラムを受験する者は提出してください。

スコアシートは外国語試験の答案として扱います。試験当日にスコアシートを忘れた場合または提出できない場合は、採点不可（0点）となります。

プログラム名	提出書類および注意事項
・生物生産科学プログラム ・生物制御科学プログラム ・環境資源物質科学プログラム ・自然環境保全学プログラム ・食農情報工学プログラム ・地球社会学プログラム	下記いずれかのスコアシートの原本（<u>入学試験日から起算して過去2年以内のもの、かつ試験実施団体から郵送される成績証明書</u>）※とコピーの両方を提出してください。 ※TOEICの場合は証明書（紙）の原本またはDigital Official Score Certificate（デジタル公式認定証）を印刷したもの TOEFL-iBT、TOEFL iBT Home Edition の紙のスコアレポートを提出しない場合は、受験申込時に指定コードG262を選択してください。ETS のオンラインシステムから本学が確認することになります。なお、11月5日15時（出願期限）までに本学が確認できない場合は出願を受け付けません。 ・TOEIC L&R-IP テスト ・TOEIC L&R 公開テスト ※TOEIC L&R IPテスト（オンライン）のスコアシートは受け付けません。 ・TOEFL-ITP ・TOEFL-iBT ・TOEFL iBT Home Edition ※TOEFL-ITP（テストデジタル版）のスコアシートは受け付けません。 ・実用英語技能検定（生物制御科学プログラムのみ） ※地球社会学プログラムを受験する外国人志願者は、上記の外部英語試験以外に下記の外部日本語試験のいずれか（ただし日本語能力試験については合格通知に限る）のコピーを提出できます。 （出願時からさかのぼり過去4回実施で最も成績のよいもの） ・日本語能力試験の成績証明書 ・日本留学試験（日本語）の成績証明書または成績確認書 提出日 ・生物生産科学プログラム、生物制御科学プログラム、自然環境保全学プログラム、食農情報工学プログラム、地球社会学プログラムは、口述試験開始時に原本とコピーの両方を提出してください。なお、地球社会学プログラムを受験する外国人志願者が日本語試験のコピーを提出する場合は出願時に提出してください。 ・環境資源物質科学プログラムは出願時にコピーを提出し、外国語（英語）試験終了時に原本を提出してください。 ※原本は口述試験終了後に返却します。

(5) 社会人特別選抜については上記(4)の他に、下記の書類を提出してください。

提出書類等	注 意 事 項		
入学志願票・写真票・受験票・入学検定料納付確認票	本学所定用紙を使用。写真は無帽上半身縦4.5cm×横3.5cm。出願前3ヶ月以内に撮影したものを写真票の所定の位置に貼り付けてください。		
履 歴 書	本学所定用紙を使用。		
志 望 理 由 書 等	生物生産科学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		研究計画書 (本学所定用紙)	入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。
	生物制御科学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		卒業論文等の概要 (様式任意)	A4用紙1枚以内(字数は2,000字程度、図表を含めても可、両面印刷も可)とします。卒業論文等を履修していない者は、これまでに学んできたことと入学後の研究に対する抱負を記入してください。
		研究計画書 (本学所定用紙)	入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。
	応用生命化学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		研究計画書 (本学所定用紙)	入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。
	環境資源物質科学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		卒業論文等の概要 (様式任意)	A4用紙1枚
		研究計画書 (本学所定用紙)	入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。
	物質循環環境科学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		卒業論文等の概要 (様式任意)	A4用紙1枚(字数は、1,000字程度)
		研究計画書 (本学所定用紙)	入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。
	自然環境保全学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		研究計画書 (本学所定用紙)	入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。
	食農情報工学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		卒業論文等の概要 (様式任意)	A4用紙1枚(字数は、1,000字程度)
		研究計画書 (本学所定用紙)	入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。
	地球社会学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。

志 望 理 由 書 等	地球社会学 プログラム	研究課題レポート (様式任意)	志望プログラムに関わる研究計画を記入。 A4用紙で字数は2,000字程度。なお、指導予定教員氏 名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。
	国際イノベーション 農学プログラム	志望理由書 (本学所定用紙)	字数は、1,000字程度。
		研究計画書 (本学所定用紙)	入学後の研究計画について具体的に記入してくだ さい。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のう え、必ず記入してください。
在 職 証 明 書	(様式任意) 出願時までに国公立の研究機関・試験場・教育機関等や民間企業の試験・研究機関等における 2年以上の研究・試験実績等を有する者であることの内容を記した勤務先の長（任命権者又は これに準ずる者）による証明書		
受 験 承 諾 書	(様式任意) 在職のまま受験することを承諾した旨が記載された勤務先の長（任命権者又はこれに準ずる者） による証明書		
成 績 証 明 書	出身（在学）大学が作成したもの。（和文または英文以外の場合は、和訳または英訳を添付して ください。）		
卒業（見込）証明書	出身（在学）大学が作成したもの。また、取得した学位の記載が無い場合は、学位取得に関す る証明書を併せて提出すること。（和文または英文以外の場合は、和訳または英訳を添付してく ださい。）		
検 定 料 (本 学 所 定 の 入 学 検 定 料 払 込 用 紙 に よ り 払 込)	入学検定料30,000円：本学所定の入学検定料払込用紙を用いて郵便局に払込みのうえ、受付局 日附印が押された「振替払込受付証明書」を「入学検定料納付確認票」の所定位置に貼り付け てください。なお、「振替払込請求書兼受領証」は受領証書となります。改めて本学から受領証 書は発行いたしませんので、大切に保管してください。 (注意)「振替払込受付証明書」の受付局日附印の押印で入学検定料納付を確認しますので、入 学検定料の納付は郵便局の受付窓口での払込に限ります。(ATM は使用不可。)		
宛 名 票	本学所定用紙を使用。合格通知等を受け取る場所の住所、氏名等（3ヶ所）を記入。		
返 信 用 封 筒 (郵 送 出 願 者 の み)	定形封筒（長形3号12cm×23.5cm）。郵送で出願する場合は、受験票返送用として住所、氏名を 明記し、郵便切手410円を貼り付けたものを同封してください。【11月13日（金）までに、受験 票が届かない場合は、入学試験係に連絡してください。】		
そ の 他	①外国人の場合には、「パスポートのコピー」と「在留カードのコピー」（国内居住者のみ）を 必ず提出してください。 ②証明書の氏名と現在の氏名が異なっている場合には、氏名変更を証明するもの（戸籍抄本等） を提出してください。		

(注) 本学所定用紙は、本冊子に綴じ込まれています

(6) 志望教育研究分野・志望する研究主指導教員について

13～23ページを参照し、志望する指導教員に連絡し、事前に承諾を得てください。

教育研究分野の詳細や教員の連絡先は、本学ホームページを参照してください。

- ・ 農学府： https://www.tuat.ac.jp/department/graduate_school/nougakuhu/
- ・ 研究者情報検索： <https://www.tuat.ac.jp/research/researcher/>

5. 注意事項

- (1) 出願にあたっては、志望する指導教員に連絡し、事前に承諾を得てください。
- (2) 受験者は、学力検査当日に必ず本学から交付した受験票を持参してください。
- (3) 学生募集に関する照会は、東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係で受け付けます。
- (4) 出願手続き終了後は、提出書類の変更は出来ないので記載事項等を十分確認のうえ提出してください。
- (5) 検定料の払い戻しはしません。

※心身に障害がある者で受験上及び修学上特別な配慮を希望する者は、必ず10月16日（金）までに府中地区事務部学生支援室入学試験係へ問い合わせてください。

6. 選抜方法・試験科目・日時及び場所

〔一般選抜〕

出願書類（志望理由書、出身学校の成績証明書）の内容、学力検査および口述試験の結果を総合して選抜します。口述試験は、志望教育研究分野についての適性、その他について審査します。

生物生産科学プログラム、生物制御科学プログラム、自然環境保全学プログラム、食農情報工学プログラム、地球社会学プログラムは、外国語（英語）の筆記試験は実施しません。（外部試験のスコアシートを利用します）

環境資源物質科学プログラムは、外部試験のスコアシートの提出と共に、外国語（英語）の筆記試験を実施します。

学力検査

期 時 間 選 抜 方 法 プログラム名	日	2026年12月3日（木）	
	日	午前9時30分 ～11時30分	午後1時～
	時間	筆記試験	口述試験・口述試験の実施方法
生物生産科学プログラム			1. 出願時に提出した入学後の研究計画書を資料として、5分以内で研究目的・研究計画を発表し、その後質疑応答を行います。 2. 生物学や化学の基礎学力について口頭試問を行います。 資料やメモを見ながら試験を受けることは認めません。
生物制御科学プログラム			1. 出願時に提出した卒業論文等の概要または入学後の研究に対する抱負について8分以内で発表してください。その際、メモを見ながらの発表は認めません。 その後、専門的な質疑応答並びに志望理由書に基づいた一般的な面接を行います。 2. 発表に際しては、資料、*パワーポイント（枚数自由）のいずれかを用意してください。
応用生命化学プログラム	外国語（英語）		1. 志望プログラムに関わる卒業論文等の概要（卒業論文を履修していない者は、入学後の研究計画）について*パワーポイント（枚数自由）を使用して8分以内で発表してください。その際、メモや発表者ツールを見ながらの発表は認めません。 2. 発表後、発表内容及び関連する生物学や化学等の基礎学力について口頭試問を行います。質疑応答の際にはホワイトボードを使用することも可能です。
環境資源物質科学プログラム	外国語（英語）		1. 志望プログラムに関わる卒業論文等の概要（志望プログラムに関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画）を5分以内で発表し、質疑応答を行います。 2. 発表は、*パワーポイント（枚数自由）によること。なお、プロジェクターはこちらで用意します。
物質循環環境科学プログラム	外国語（英語）		1. 志望プログラムに関わる卒業論文等の概要および入学後の研究計画（志望プログラムに関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画）を5分程度で発表し、質疑応答を行います。 発表で使用するノートパソコン等を持参すること。 2. パワーポイント等を使い発表すること。スライドの枚数は制限しません。メモを見ながらの発表は認めません。
自然環境保全学プログラム			1. 志望プログラムに関わる卒業論文等の概要（志望プログラムに関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画）を5分以内で発表し、質疑応答を行います。発表は、*パワーポイント（スライド4枚以内）によること。 2. 志望教育研究分野の学力について口頭試問を行います。
食農情報工学プログラム			1. 志望プログラムに関わる学習・研究概要（卒業論文や調査報告書など、専門分野に関する知見の有無が判定できるもの）及び入学後の研究計画について5分程度で発表し、質疑応答を行います。 2. 発表に際しては、*パワーポイント（枚数自由）の使用可。 発表に用いるスライド等の資料を印刷し、試験当日に10部持参してください。
地球社会学プログラム			出願時に提出した志望プログラムに関わる研究課題レポートをもとに10分以内で発表し、質疑応答を行います。

国際イノベーション 農学プログラム	外国語（英語）	1. 志望教育研究分野に関わる卒業論文等の概要（志望教育研究分野に関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画）を5分以内で発表し、知識と適性に関して質疑応答を行います。 2. 発表に際しては、*パワーポイント（4スライド以内）の使用可。
場 所	東京農工大学大学院農学府	

※ パワーポイントについては、ウィンドウズ・パワーポイントを用意しますので、USBメモリで電子ファイルを持参してください。なお、USBメモリについては、事前に必ずウイルスチェックを行ってください。また、スライドの内容を印刷した資料（A4用紙1ページに1コマ）も必ず1部（食農情報工学プログラムは10部）持参してください。

【社会人特別選抜】

出願書類（志望理由書、出身学校の成績証明書）の内容、学力検査および口述試験の結果を総合して選抜します。口述試験は、志望教育研究分野についての適性、その他について審査します。

生物生産科学プログラム、生物制御科学プログラム、自然環境保全学プログラム、食農情報工学プログラム、地球社会学プログラムは、外国語（英語）の筆記試験は実施しません。（外部試験のスコアシートを利用します）

環境資源物質科学プログラムは、外部試験のスコアシートの提出と共に、外国語（英語）の筆記試験を実施します。

学力検査

期 日 時 間 選 抜 方 法	2026年12月3日（木）	
	午前9時30分 ～11時30分	午後1時～
	筆記試験	口述試験・口述試験の実施方法
プログラム名		
生物生産科学 プログラム		1. 出願時に提出した入学後の研究計画書を資料として、5分以内で研究目的・研究計画を発表し、その後質疑応答を行います。 2. 生物学や化学の基礎学力について口頭試問を行います。 資料やメモを見ながら試験を受けることは認めません。
生物制御科学 プログラム		1. 出願時に提出した卒業論文等の概要または入学後の研究に対する抱負について8分以内で発表してください。その際、メモを見ながらの発表は認めません。 その後、専門的な質疑応答並びに志望理由書に基づいた一般的な面接を行います。 2. 発表に際しては、資料、*パワーポイント（枚数自由）のいずれかを用意してください。
応用生命化学 プログラム	外国語（英語）	1. 志望プログラムに関わる卒業論文等の概要（卒業論文を履修していない者は、入学後の研究計画）について*パワーポイント（枚数自由）を使用して8分以内で発表してください。その際、メモや発表者ツールを見ながらの発表は認めません。 2. 発表後、発表内容及び関連する生物学や化学等の基礎学力について口頭試問を行います。質疑応答の際にはホワイトボードを使用することも可能です。
環境資源物質科学 プログラム	外国語（英語）	1. 志望プログラムに関わる卒業論文等の概要（志望プログラムに関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画）を5分以内で発表し、質疑応答を行います。 2. 発表は、*パワーポイント（枚数自由）によること。なお、プロジェクターはこちらで用意します。
物質循環環境科学 プログラム	外国語（英語）	1. 志望プログラムに関わる卒業論文等の概要および入学後の研究計画（志望プログラムに関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画）を5分程度で発表し、質疑応答を行います。 発表で使用するノートパソコン等を持参すること。 2. パワーポイント等を使い発表すること。スライドの枚数は制限しません。メモを見ながらの発表は認めません。
自然環境保全学 プログラム		1. 志望プログラムに関わる卒業論文等の概要（志望プログラムに関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画）を5分以内で発表し、質疑応答を行います。発表は、*パワーポイント（スライド4枚以内）によること。 2. 志望教育研究分野の学力について口頭試問を行います。

食農情報工学 プログラム		1. 志望プログラムに関わる学習・研究概要（卒業論文や調査報告書など、専門分野に関する知見の有無が判定できるもの）及び入学後の研究計画について5分程度で発表し、質疑応答を行います。 また、学習・研究概要の根拠となるもの（卒業論文や調査報告書など）も併せて、口述試験当日に10部持参してください。 2. 発表に際しては、*パワーポイント（枚数自由）の使用可。 発表に用いるスライド等の資料を印刷し、試験当日に10部持参してください。
地球社会学 プログラム		出願時に提出した志望プログラムに関わる研究課題レポートをもとに10分以内で発表し、質疑応答を行います。
国際イノベーション 農学プログラム	外国語（英語）	1. 志望教育研究分野に関わる卒業論文等の概要（志望教育研究分野に関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画）を5分以内で発表し、知識と適性に関して質疑応答を行います。 2. 発表に際しては、*パワーポイント（4スライド以内）の使用可。
場 所	東京農工大学大学院農学府	

※ パワーポイントについては、ウィンドウズ・パワーポイントを用意しますので、USBメモリで電子ファイルを持参してください。なお、USBメモリについては、事前に必ずウイルスチェックを行ってください。また、スライドの内容を印刷した資料（A4用紙1ページに1コマ）も必ず1部（食農情報工学プログラムは10部）持参してください。

7. 合格発表

合格者を2026年12月11日（金）午前10時、東京農工大学大学院農学府ホームページ（https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi_daigakuin/goukaku_daigakuin/）に3日間掲載します。

また、合格者には合格通知を本人に郵送します。なお、電話での問い合わせには一切応じません。

8. 入学手続

(1) 入学手続日

2027年3月15日（月）

入学手続き方法：入学手続き方法の詳細および必要書類については、2027年1月下旬頃に本人に郵送しますので、それに従ってください。

所定の時期までに入学手続き書類が届かない場合は、東京農工大学府中地区事務部 学生支援室入学試験係までご連絡ください。

電話（直通）042-367-5659

留 意 事 項：入学手続日までに入学金の納付（免除等申請者は除く）および入学書類の提出がない場合は入学の意思がないものとして取り扱います。また、入学手続日翌日以降に入学の意思を示しても、事務手続き上、入学を受け付けることはできません。

(2) 入学に要する費用等

①入学料 282,000円

②授業料（前期分）321,480円（後期分）321,480円

（注）入学料、授業料の金額は改定されることがあります。なお、在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

9. 社会人特別選抜入学制度利用者の履修情報

社会人特別選抜入学制度によって、本学府に入学した学生は、原則として通常の時間帯における科目を履修するものとしますが、プログラムが教育上特別な必要性を認めた場合は、大学院設置基準第14条に示される教育方法の特例（規定）に基づいて単位を取得することができます。

10. 個人情報の取り扱い

出願書類に記載されている氏名、性別、住所その他の個人情報（入試成績に関する情報を含む）は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」および「国立大学法人東京農工大学個人情報の保護に関する規程」に基づき、本学において、入試の実施・入学手続、入学者の受入準備、奨学金等の制度の運用、統計資料等の作成及び入試に関する調査・研究に利用します。

また、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、本人又は第三者の権利利益を不当に侵害するおそれがない場合に限り、提供することがあります。

- (1) 本人の同意があるとき、又は本人に提供するとき。
- (2) 行政機関（行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律第2条第1項に規定する行政機関）、他の独立行政法人等、地方公共団体又は地方独立行政法人に提供する場合において、提供を受ける者が、法令の定める事務又は業務の遂行に必要な限度で提供に係る個人情報を利用し、かつ、利用について相当な理由のあるとき。
- (3) 統計の作成又は学術研究の目的のために他の機関に提供するとき。
- (4) 本学の業務を行うために、個人情報の電算処理を外部に委託する場合、個人情報の提供が必要なとき。
（なお、この場合には、個人情報保護法の趣旨に則った保護管理の事項を明記の上契約します。）

11. 安全保障輸出管理について

東京農工大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「国立大学法人東京農工大学安全保障輸出管理規程」を定め、学生の受入に際し厳格な審査を行っています。

規制事項に該当する場合には、本学から経済産業省への許可申請が必要となり、すぐに教育が受けられない場合や研究ができない場合があります。

また、本学からの許可申請について、経済産業省が国際平和・安全の維持の観点から不許可とした場合、結果的に本学での教育が受けられない場合や研究ができない場合があります。

12. 試験問題の公表について

過去3年間の試験問題を公開しています。詳細は本学ホームページ

(https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi_daigakuin/seikyuu/nougakuhu.html) にてご確認ください。

13. 入学者選抜の情報公開に関する問い合わせ先

入学者選抜に関しては東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係までお問い合わせください。

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 TEL 042-367-5659

〔問い合わせ先〕

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係
電話（直通）042-367-5659【土・日・祝日を除く午前9時～午後5時】

出願資格（９）について

(1) この出願資格の認定については、次のとおり事前審査によって行いますので、次の書類を事前審査申請書類受付期間中に府中地区事務部学生支援室入学試験係に提出してください。

審査は、書類及び口述で行います。レポートは、審査の参考資料として扱います。（口述は実施しない場合もあります。）

提出書類

入学試験出願資格事前審査申請書	本学所定用紙を使用
履歴書	本学所定用紙を使用
最終出身学校の卒業（見込）証明書	出身（在学）大学等が作成したもの。（和文を原則とするが、英文でもよい。）
最終出身学校の成績証明書	出身（在学）大学等が作成したもの。（和文を原則とするが、英文でもよい。）
レポート	課題「出願動機と志望プログラムに関わる抱負」又は、「卒業研究、課題研究、又はそれと同程度の研究報告書等の要旨」（字数2000字程度、書式A 4判レポート用紙）
返信用封筒	住所、氏名及び郵便番号を明記し、410円切手を貼付した定型封筒（長形3号 12cm×23.5cm）

（注）本学所定用紙は、本冊子に綴じ込まれています。

(2) 事前審査申請書類受付

受付期間 2026年9月18日（金）～9月25日（金）午後3時まで

受付場所 東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係

〒183-8509 府中市幸町3-5-8

電話（直通）042-367-5659

郵送の場合は簡易書留とし、封筒の表に「事前審査申請書類在中」と朱書きし、上記期間内に到着するように郵送してください（期間内必着）。

(3) 口述審査（実施しない場合もあります。）

日程 2026年10月1日（木）予定（詳細は事前審査受付後、本人あてに通知します。）

場所 東京農工大学大学院農学府

(4) 事前審査の結果は、2026年10月9日（金）までに本人あてに通知します。

(5) 事前審査の結果、出願資格の認定を受けた者は、出願書類受付期間に出願資格を認定した通知文書のコピーを添付して出願手続を行ってください。

出願資格（10）について

- (1) この出願資格の認定は、次のとおり事前審査によって行いますので、次の書類を事前審査申請書類受付期間中に府中地区事務部学生支援室入学試験係に提出してください。

提出書類

入学試験出願資格事前審査申請書	本学所定用紙を使用
履歴書	本学所定用紙を使用
志望理由書	本学所定用紙を使用
研究計画書	本学所定用紙を使用（字数1000字程度）
成績証明書	出身（在学）大学等が作成したもの。（和文を原則とするが、英文でもよい。）
在籍大学学部・学科の授業科目要項等	本学在籍者は不要です。
返信用封筒	住所、氏名及び郵便番号を明記し、410円切手を貼付した定型封筒（長形3号 12cm×23.5cm）

（注）本学所定用紙は、本冊子に綴じ込まれています。

- (2) 事前審査申請書類受付

受付期間 2026年9月18日（金）～9月25日（金）午後3時まで

受付場所 東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係

〒183-8509 府中市幸町3-5-8

電話（直通）042-367-5659

郵送の場合は簡易書留とし、封筒の表に「事前審査申請書類在中」と朱書きし、上記期間内に到着するように郵送してください（期間内必着）。

- (3) 事前審査の結果は、2026年10月9日（金）までに本人あてに通知します。

- (4) 事前審査の結果、出願資格の認定を受けた者は、出願書類受付期間に出願資格を認定した通知文書のコピーを添付して出願手続きを行ってください。

- (5) 注意事項

本出願資格に基づき出身の大学を卒業することなく本学府に入学した場合、出身大学は退学する必要があります。この選抜によって、本学府に入学した者の学部生としての学籍上の身分は退学となります。

これによって、学部卒業が要件となる各種資格及び受験資格はなくなりますので十分留意してください。

東京農工大学大学院農学府修士課程概要

農学府は、入学生募集の基本方針（アドミッション・ポリシー）に沿った人材を育成するために、農学専攻に生物生産科学、応用生命化学、自然環境資源、食農情報工学、地球社会学および国際イノベーション農学の6コースを構成しています。コース内はさらに9プログラムから構成され、各プログラムには1～4の教育研究分野が設けられています。

本学府では、これらの農学教育研究の各分野において長い伝統と学問的成立に立脚し、基礎的あるいは応用的研究、先端のあるいは総合的・学際的に取り組んでおり、すでに多くの修了者は大学・官公庁・産業界をはじめ日本のみならず海外における研究・技術の発展と開発に大きく寄与しています。

また、本学府は首都の郊外に位置し、四季を通じて豊かな自然の環境に恵まれ、各種研究機関、他大学、学会等との連携にも便利で、研究推進上多くの利点を持っています。

1. 各プログラムの各教育研究分野の教育研究の目的、主な授業科目および研究内容

生物生産科学コース					
プログラム	生物生産科学プログラム				
教育研究の目的	食料生産技術と環境保全の調和、持続的な生物生産の確立、食料自給率向上や安定供給、動植物の生産機能の解明、バイオマス利活用技術の開発等に貢献する能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。 この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。				
教育研究分野	生産環境科学		植物生産科学		動物生産科学
内容	環境と調和した生物生産を通じて安全な食料の供給を実現するため、農業生産をとりまく動植物・昆虫・微生物・土壌などの環境要素を総合的に解析研究するとともに、その基礎となる高度な専門知識及び研究手法を教育して、農業・食料・生物資源関連産業分野の指導の人材及び技術開発に貢献できる人材を養成する。		食料の持続生産と効率性・安全性を実現するため、植物について、分子・細胞・個体・個体群の生産機能向上について解析研究するとともに、その基礎となる高度な専門知識及び研究手法を教育して、農業・食料・生物資源関連産業分野の指導の人材及び技術開発に貢献できる人材を養成する。		食料の持続生産と効率性・安全性を実現するため、家畜及び有用昆虫について、分子・細胞・個体・個体群の生産機能向上について解析研究するとともに、その基礎となる高度な専門知識及び研究手法を教育して、農業・食料・生物資源関連産業分野の指導の人材及び技術開発に貢献できる人材を養成する。
担当教員と研究内容	伴 琢也	環境要因が園芸作物の成長に及ぼす影響の解明と栽培技術への応用	大川泰一郎	イネなどの作物における多収・高バイオマス生産および倒伏抵抗性、高温、水ストレス抵抗性に関わる生態生理、遺伝学的性質の解明、および品種改良への適用	青木 康浩 家畜の健康モニタリングに関する研究および生産性と健全性の向上を両立させる飼養管理技術の開発
	杉村 智史	家畜の繁殖技術、特に生育可能な家畜受精卵の生産とその選択および移植に関する研究	安達 俊輔	作物のゲノム情報を活用した光合成と物質生産過程の理解ならびに新たな栽培技術や育種素材を開発するための研究	新村 毅 動物の行動を分子レベルから集団レベルまで横断的に理解して制御する研究、福祉的管理システムの開発と自動評価・制御技術の開発
	中嶋 紀寛*2	多様な外部環境と放牧家畜の健康性との関係解明に関する研究および耕作放棄地の家畜生産利用に関する技術開発			

* 2印の教員は入学志願票、受験票に記載できません（入学志願票（注）4、受験票（注）4参照）。

生 物 生 産 科 学 コ ー ス						
プログラム	生 物 生 産 科 学 プ ロ グ ラ ム					
教育研究分野	生産環境科学		植物生産科学		動物生産科学	
	杉原 創	土壌の特性に着目した炭素・窒素・リン循環の解明と、それに基づく土壌資源を持続的に管理する方策の構築	鈴木 栄	組織培養や遺伝子組み換え技術を用いた大量増殖法と品種育成に関する研究	伊藤 克彦	カイコの致死や寿命および罹病性に関わる突然変異遺伝子の単離とその機能を利用した害虫防除への応用
	大津 直子	植物の窒素や硫黄等の養分吸収や植物体内での代謝の分子機構、及び作物の土壌微生物を利用した養分吸収機構	高橋さくら*2	植物工場やハウス内の環境制御による園芸作物の高収量化および高品質化に関する研究	天竺桂弘子	医薬・農薬として有用な昆虫由来成分の探索に関する研究、昆虫ゲノム情報を活用したヒト疾患分子機序の解析に関する研究、および家畜飼料としての昆虫の利用に関する研究
	安掛真一郎*2	作物生産に有用な細菌を単離し、その機能性や植物との相互作用機構を解析し、農業に応用できる技術を開発する。	山田 哲也	オミックス情報に基づき、花の寿命やストレス耐性など、植物の各種形質を支配している遺伝子群を同定し、それらを利用した分子育種技術を開発し、作物の品種改良を効率化する研究		

* 2印の教員は入学志願票、受験票に記載できません（入学志願票（注）4、受験票（注）4参照）。

生 物 生 産 科 学 コ ー ス					
プログラム	生 物 制 御 科 学 プ ロ グ ラ ム				
教育研究の目的	植物、微生物、昆虫などの生物の制御および生物間相互作用に関する研究分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。 この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。				
教育研究分野	生物制御科学				
内容	生体分子から細胞、個体、個体群、群集における生物の機能に着目し、分子生物学、分子遺伝学、ゲノム生物学、生化学、天然物化学、生態学、進化生物学の立場から理解し、有害生物の制御や有用物質生産への応用を目的とした教育研究を行う。				
担当教員と研究内容	井上 真紀	昆虫・植物・微生物の生物間相互作用に関する研究		小松 健	植物RNAウイルスの病原性発現機構および植物の抵抗性機構に関する研究
	岩上 哲史	雑草の適応進化に関する研究			
	笠原 博幸	植物成長調節物質による植物の成長および環境応答制御機構の解明と応用		仲井まどか	ウイルスと昆虫の応答関係の解明および微生物的防除法の開発
	川出 洋	生理活性を有する天然有機化合物の生合成研究および生合成酵素エンジニアリングによる有用物質創製		森山 裕充	菌類ウイルスの分子遺伝学的研究と生物防除資材としての応用開発

応 用 生 命 化 学 コ ー ス						
プログラム	応 用 生 命 化 学 プ ロ グ ラ ム					
教育研究の目的	生体分子化学、生理生化学、健康長寿科学などの生命機能を理解し応用する専攻分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。					
教育研究分野	生体分子化学		生理生化学		健康長寿科学	
内容	生命機能分子の構造解析・合成・機能改変・有効利用等に関する教育研究を行う。		生理生化学的調節の分子機構の解析・制御、糖鎖やタンパク質の解析、遺伝子の発現制御やポストゲノム解析とこれらを基盤とした医薬・治療法や様々な物質生産への応用に関する教育研究を行う。		老化に伴う認知症や運動・学習能力の低下に伴う介護等、高齢化社会における諸問題に対応するために、医学と農学の両方の立場からその解決法を探るための教育研究を行う。	
担当教員と研究内容	北野 克和	生物活性物質の構造活性相関の考察と活性発現機構の解明	三浦 豊	疾病モデルを用いた食品因子の機能検定とその作用機構解析	萬谷 博*3 内田 さえ*3 柿澤 昌*3	身体の老化のメカニズム、細胞の老化のメカニズム、高齢者における臓器と老年病の発症病態に関する基礎・応用生物学
	岡田 洋平	生物プロセスに立脚した有機合成化学に関する研究	馬谷 千恵*2	栄養による生殖・行動調節メカニズムの生理学的研究		
	好田 正	食品の免疫調節機構の解明と免疫関連疾患の予防への応用	殿塚 隆史	糖質に作用する酵素の立体構造と機能の解析およびその利用		
	松下 保彦	植物遺伝子発現調節機構の解明	小菌 拓馬*2	食品と味覚の相関・味覚システムの多様な生物学的意義の理解、およびその応用		
	佐々木信光	植物と病害微生物との分子間相互作用に関する研究	鈴木絵里子	微生物由来の生理活性物質の単離と作用解析 癌幹細胞の分化・増殖制御機構の解析		
	宮田 真路	細胞外マトリクス分子の生理機能と生体材料としての利用価値の創出	川合 伸也*2 *4	植物代謝産物の生合成制御解析と分子育種		
	山本 和博	組織破壊の分子・細胞・個体レベルでの理解と応用	田中 瑞己	微生物ゲノム情報に基づく遺伝子及びその産物の解析と利用		
			宮本 潤基	ヒトの健康増進に寄与する機能性食品素材の探索と分子機序の解明		

* 2 印の教員は入学志願票、受験票に記載できません（入学志願票（注）4、受験票（注）4 参照）。

* 3 東京都健康長寿医療センター研究所（連携研究員）

* 4 令和10年3月31日退職予定。但し、指導を受ける学生は、研究指導教員を本プログラム所属教員に変更し引き続き修学が可能。

自然環境資源コース					
プログラム	環境資源物質科学プログラム				
教育研究の目的	環境資源物質科学分野において卓越した能力を有する広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。特に資源物質の構造解析や機能、利用技術、環境への影響・負荷の低減化に寄与できる人材を育成する。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。				
教育研究分野	環境資源材料学		資源機能制御学		
内容	生物資源を中心とした物質の分子レベルから巨視的レベルに至る解析、有機化学反応の機構、有用植物資源の開発及び植物組織構造の解析、植物材料の物性と機能の解析及びその高機能化、資源材料の総合的な高度利用、加工技術及び住環境材料の開発など、資源開発から物理的変換利用までの資源循環利用に関する教育研究を行う。		植物資源の形成、複合化及び化学加工による機能開発、植物繊維特性の解析とその高機能化、資源のリサイクルと再生化の科学と技術、資源の保存技術及び諸材料の生分解機能の解明と制御など、生物資源の形成・機能開発・再生化から分解・廃棄までの資源循環利用に関する教育研究を行う。		
担当教員と研究内容	安藤 恵介	住環境で利活用可能な木材を主とする新素材の開発や加工、並びに住環境材料のライフサイクルアセスメント	近江 正陽*4	廃材などを原料とする木質材料の機能化、住環境を形成する木材の機能評価、未利用植物資源の高度利用	
			堀川 祥生	木質バイオマスの微細構造解析と機能解明ならびに細胞壁成分に基づく生物資源の多様性評価	
			吉田 誠	微生物による木質材料生分解機構の解明、およびその機構に基づくバイオマス変換技術の開発と木材保存への応用	
	松原 独歩	高剛性・高耐力性能を発現する木質構造接合部の開発ならびにその性能評価、耐荷機構の解明	半 智史	木質バイオマスにおける組織構造特性および材料特性の発現機構解明に向けた細胞生物学的解析	
			小瀬 亮太	植物繊維資源を原料とした高機能性材料の開発ならびに紙パルプの新規用途とリサイクル技術の開発	
			松下 泰幸	細胞壁構成成分の化学構造および生合成過程の解析ならびに植物バイオマスを原料とした機能性物質の開発	

* 4 令和10年3月31日退職予定。但し、指導を受ける学生は、研究指導教員を本プログラム所属教員に変更し引き続き修学が可能。

自然環境資源コース				
プログラム	物質循環環境科学プログラム			
教育研究の目的	環境化学および環境生物学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。 この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。			
教育研究分野	環境生物学		環境化学	
内容	様々な環境における植物・動物・微生物を通じた物質循環の解明と多様な環境汚染物質が生物に及ぼす影響の解明を生物学的視点から行うことを通して、生態系の保全・修復に必要な手法の開発に寄与する教育研究を行う。		様々な環境における微量元素、無機物質、有機化合物などの分布とこれらの循環過程、人間活動による物質循環の攪乱の影響を主として化学的手法を用いて解明し、環境の修復、保全に寄与する教育研究を行う。	
担当教員と研究内容	多羅尾光徳	微生物食物連鎖を通じた生態系における物質循環の構造と機能の解明、および微生物を用いた環境浄化・温室効果ガス削減に関する研究	渡邊 泉	汚染化学物質、おもに重金属類や生体微量元素・放射性元素の環境動態および野生生物に対する生態毒性の解明
	大地まどか	海洋環境における人工化学物質の動態および水生生物に対する影響の解明	松田 和秀	大気汚染物質の植生への乾性沈着メカニズムの解明とアジア地域における沈着量の評価
	渡辺 誠	大気や土壌環境の変化に対する樹木の生理生態学的応答についての基礎および応用研究	梅澤 有	フィールド調査と実験系研究の両面からの、安定同位体比等の化学分析を基にした水圏生態系の生元素循環・食物網の解明
			水川 薫子	人為起源有機化合物の環境動態（分布・発生源・挙動）と体内動態（蓄積・代謝）の解明、およびそのための研究手法の開発

自然環境資源コース				
プログラム	自然環境保全学プログラム			
教育研究の目的	野生生物、山地・森林、都市および人間を対象にして、自然環境の持続的利用と保護および回復に関わる自然環境保全学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施します。 なお、当プログラムでは、学術的な教育研究を一層推進するため、通常の指導体制に加えて、プログラム所属教員が共同で取り組む研究指導体制があります。進学した学生は、希望により生態系管理にかかわる複合的な研究に参画し、プログラム所属教員による集団的な研究指導を受け、修士論文を作成することができます。			
教育研究分野	生態系保全学		森林環境保全学	
内容	多様な自然環境の保全と人間との良好な関係の構築を目指し、野生動植物の分布や生態の把握、人間社会や人間の健康と自然環境の関わり等の説明、自然の保護や管理、回復の理論と方法などの生態系保全に関する教育研究を行います。		森林生態系および山地の生物・土・水といった構成要素において、成因や相互関係を探求して森林環境の形成過程を説明するとともに、森林や山地の環境を人間社会との関わりを含むシステムとしてとらえ、森林資源の持続的利用と森林・山地の保全と回復に関わる科学技術の教育研究を行います。	
担当教員と研究内容	吉川 正人	森林・草原などの植物群落の生態的特性の解明と、その保護・管理のための理論と方法	加用 千裕 平原 俊*2	自然環境の保全と持続的な資源利用による社会・経済・環境効果の解明および保全と利用を両立する管理体制の構築
	金子 弥生	野生鳥獣の個体群と生息地、保全生態学、救護学など、野生動物の保護と管理のための理論と方法	崔 東壽	森林生態系の保全・修復及び緑化を目的とした、樹木の生理生態ならびに共生微生物との相互作用機構の解明
	鈴木 馨	健康と密接に関係する各種生体情報を手がかりとした、ヒトと自然生態系との健全な共生関係の解明	白木 克繁	山地流域における水循環および土砂の運動機構の解明と、それらに起因する災害の防止・軽減手法
	高田 隼人	野生鳥獣の個体群と生息地、保全生態学、救護学など、野生動物の保護と管理のための理論と方法	岩岡 正博*4	森林資源を材料やエネルギーとして安全に・楽に・効率良く・低負荷で供給・利用するための技術の構築
	諸澤 崇裕	野生動物管理、外来種管理、希少種保全につながる個体群・群集生態学の技術の構築と応用	松本 武	木材やバイオエネルギーなどの資源の効率的利用と、利用による環境負荷を低減するための技術の構築
	下田 政博 福本 寛之*2	健康と密接に関係する各種生体情報を手がかりとした、ヒトと自然生態系との健全な共生関係の解明	オンウォナアジアノシアウ	木材やバイオエネルギーなどの資源の効率的利用と、利用による環境負荷を低減するための技術の構築
	赤坂 宗光 宮下 オースターマン 総夢フェリチタス*2	陸域および陸水域に生息する生物種・個体群・群集とそれらを含む広域生態系を保全するための理論と方法	小池 伸介	生物群集と環境との関わり、生物間相互作用、動物・植物個体群の生活史戦略、生物多様性の維持機構の解明
	岩井 紀子	陸域および陸水域に生息する生物種・個体群・群集の生態の理解と保全のための理論と方法	吉田 智弘 小林 勇太*2	森林生態系における生物群集の構造と機能的役割、および生物多様性の維持機構の解明

* 2 印の教員は入学志願票、受験票に記載できません（入学志願票（注） 4、受験票（注） 4 参照）。

* 4 令和10年 3 月31日退職予定。但し、指導を受ける学生は、研究指導教員を本プログラム所属教員に変更し引き続き修学が可能。

食 農 情 報 工 学 コ ー ス					
プログラム	食 農 情 報 工 学 プ ロ グ ラ ム				
教育研究の目的	農学と工学の手法を駆使して、海外も含めた農山村地域の発展に貢献し、持続的食料生産システムや地域環境整備を行う農業環境工学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。 この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。				
教育研究分野	地域環境工学			生物生産工学	
内容	都市・農村地域における生産環境、自然環境、生活環境の調和を図り、農業者を中心においた農村計画、住環境整備について教育研究を行う。			生産性向上と環境保全の問題を同時に解決しうる食糧生産供給システムの構築を目指す知識と技術に関する教育研究を行う。	
担当教員と研究内容	斎藤 広隆	物質移動解析に基づく土壌環境の保全・再生・持続的な利用に関する研究および工学的解析による地盤の安定や防災に関する研究		帖佐 直 渡辺 将央* ²	生産環境の計測制御、および数値シミュレーションとデータアナリティクスを基盤技術とした食料生産システムの安全性、自動化・知能化に関連する研究
	西脇 淳子	土壌物理特性に基づく土壌圏での環境影響物質（水、温室効果ガス、化学物質など）の動態把握をもとにした健全な土壌環境維持を目指す研究			安永円理子
	中島 正裕	中山間地域の活性化と震災復興を目的とした土地利用計画、意志決定支援、および地域資源を活用した材料開発・管理に関する研究		JOHN, Kingsley	Research aimed at generating soil resources to develop models based on soil resource spatial variability and carbon sequestration processes, leveraging electromagnetic radiation, such as X-ray fluorescence and visible-near-infrared spectroscopy.
	島本 由麻	構造材料の損傷度評価や植物体の水ストレス診断に関する研究および地域資源を有効活用した材料開発			

* 2印の教員は入学志願票、受験票に記載できません（入学志願票（注）4、受験票（注）4参照）。

地 球 社 会 学 コ ー ス						
プログラム	地 球 社 会 学 プ ロ グ ラ ム					
教育研究の目的	農学諸分野の科学技術を理解した上で、人文社会科学に基づく問題発見と分析、課題解決のための企画・課題遂行・調整などに卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。 この目的を達するため共生人間学・環境社会関係学・食料環境経済学の専門分野における革新的学術研究を併せて実施する。					
教育研究分野	共生人間学		環境社会関係学		食料環境経済学	
内容	人間と自然（また、人間と人間）の共生のあり方に関する人文社会科学的研究 特に、哲学、倫理学、心理学、歴史学、社会学の分野にわたる総合的研究		環境問題を解決し、持続可能な社会を実現するための社会科学的研究 特に、社会・教育システム、法制度、経済政策、国際協力の分野にわたる総合的研究		環境共生型社会を実現し、持続的な農業・農村システムを創出するための農業経済学的研究、農業経営・生産組織に関わる研究、農産物流通・食料関連産業に関わる研究	
担当教員と研究内容	高橋 美貴	生業の歴史、地域資源の利用や管理に関わる歴史など、人間と自然の関係にかかわる歴史学的研究	吉田 央	政治経済学の理論研究およびそれを応用した環境問題の分析	草処 基	発展途上国・移行経済国の農業経営形態の特徴と変容ならびに格差問題に関する研究
	甲田菜穂子	身近な動物と人との関係についての心理・行動研究とその成果を人の福祉の向上に役立てる実践的研究			観山恵理子	農産物および食品市場をめぐる流通・加工過程、流通政策、産直や有機農業などに関する社会科学的研究
	澤 佳成	人間と自然との共生および環境問題の背景に関する、哲学的、人間的、社会思想的研究	榎本 弘行	環境の負荷を防止・低減することを目的とする法である環境法に関する研究	新井 祥穂	国内外の農業の構造分析を踏まえた持続可能な農業・農村社会の構築に関する経済学的・政策学的な研究、共生社会のあり方に関する農業経済学的な研究
	竹本 太郎	自然資源または自然環境をめぐる農山村の近代化および現代的課題に関する社会学的研究				
	大倉 茂	動物倫理や環境倫理思想史を含む、広義の環境倫理学や倫理学基礎論の研究	汪 牧耘	日本・中国・ラオスを主なフィールドに、開発と環境の歴史と現在をめぐって、教育学・知識社会学の視点から取り組む学際研究	曲木 若葉	国内外の農業の構造分析を踏まえた持続可能な農業・農村社会の構築に関する経済学的・政策学的な研究、共生社会のあり方に関する農業経済学的な研究

国 際 イ ノ ベ ー シ ョ ン 農 学 コ ー ス						
プログラム	国 際 イ ノ ベ ー シ ョ ン 農 学 プ ロ グ ラ ム					
教育研究の目的	学際的な環境農学分野において、国際的視野を持ち、諸外国の文化を理解し、国際社会において指導的立場でイノベーションを起こすことのできる専門家及び研究者を養成する。 この目的を達するために下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。					
教育研究分野	国際環境修復保全学		国際生物生産資源学		国際地域開発学	
内容	生物と人間の相互作用に留意しながら、地域の自然―農業生態系における環境劣化の実態分析、地域環境の修復手法の開発や保全計画の策定、環境に配慮した持続的な農業生産のための水の有効利用や土地の保全、地下水環境のモニタリング、土壌汚染防止等に関する研究を行う。		国際的・地域的な見地から、現在有用な、また将来利用可能な生物資源の探索および生物的機能の分析を行う。さらに、地域の生物資源と生態環境を活かし、持続可能な生物生産技術を開発するための総合的な研究を行う。		開発途上国・途上地域における農業・農村開発を中心とした持続可能な地域開発・社会計画を、技術的な側面を重視しつつ、かつ各地域の経済的・社会的・文化的な諸特性をも考慮する総合的かつ学際的な開発研究・援助研究を基礎に遂行することを目指す教育研究を行う。	
担当教員と研究内容	Julien Eric Stanislas BOULANGE	水循環と人間活動の影響を考慮した全球および広域シミュレーションモデルを用いた、気候変動が農業システムに与える影響を定量化する研究。	岡崎 伸	農業や環境修復に役立つ微生物を分離して、ゲノム解析や分子生物学的解析を行い、国内外の持続的農業生産に応用する。	山田 祐彰	開発途上地域の社会経済文化的諸条件に適合し、環境により優しい持続型農業の開発と普及に関する示唆に富んだ事例を研究する。
			森 美穂子	植物や微生物などの生物資源が生産する多様な代謝物の化学構造、生物活性を明らかにし、環境保全、農業技術開発、食品・医薬品開発分野に応用する。	川端 良子	乾燥地における地域開発と節水型農業に関する調査研究を行う。
	南光 一樹	力学的手法・センシング技術・機械学習等を用いた、植物生態系と環境の相互作用の解明。	及川 洋征	熱帯地域における生物生産・資源管理および環境保全に役立つ、農林業技術の探索・開発について研究し、現地での改良を図る。	聶 海松	持続可能な開発を効果的に実現する人口動態に注目しつつ、途上諸国・地域、特に中国の口問題に関する調査研究を行う。
			小木曾映里	国内外の遺伝資源が持つ有用形質を分子・遺伝学的に解明し、地域の資源と環境を活かした農業生産に応用する。	丸 健	経済・制度・環境等の外生的変化が地域社会に及ぼす影響を、社会組織の特性を踏まえて経済学的に分析する。

国 際 イ ノ ベ ー シ ョ ン 農 学 コ ー ス									
プログラム	国 際 イ ノ ベ ー シ ョ ン 農 学 プ ロ グ ラ ム								
教育研究分野	国際応用動物学								
内容	世界規模での動物繁殖技術・動物飼養技術を確立するため、動物生体の構造、機能、行動、進化について、分子生物学や遺伝学的な知識をもとに概説し、さらに国際感染症対策など、動物疾病に関わる化学物質や病原性微生物について、疾病の予防や治療、さらに公衆衛生に関連する知見について講義や討論を行う。								
担当教員と研究内容	佐藤 俊幸*4	動物の行動の適応的意義とメカニズムに関する研究		水谷 哲也	未来に出現する未知のウイルスの探索と予測「未来疫学」		西藤 公司	哺乳動物に発症する皮膚疾患の病態・診断・治療に関する研究	
	金田 正弘	エピジェネティクス変化による哺乳類の遺伝子発現制御機構に関する研究		古谷 哲也	人獣共通病原体を含む、人と動物の病原性ウイルスと原虫寄生虫の感染機構や治療・防御の研究		田中 綾	循環器疾患の病態評価、治療法の検討	
	永岡謙太郎	生体の恒常性維持と破綻に関わる諸因子の総合的理解		大松 勉	家畜および野生動物を対象とした感染症の防疫に関する研究		清水 美希	小動物整形外科疾患に対する画像診断法に関する研究	
	山本 ゆき	哺乳動物の生理現象を制御する細胞機能の解明と応用		オブライエン 悠木子	哺乳類および鳥類に病原性を示す微生物による疾病の病態機序解明と診断・治療・予防法の開発		岸本 海織	レントゲンやCTスキャンなどの放射線装置を利用した動物の体内構造の解明や、動物に負担が少ない新しい画像診断法の開発に関する研究	
	佐々木一昭	動物における臨床薬物動態学		村越 ふみ	寄生虫の感染制御法の開発、感染機構の解明、分子疫学研究		井手 香織	伴侶動物（犬・猫）の主に消化器系と造血器系疾患を対象に、病態解析から診断法や治療法の開発を目指す	
	鈴木 和彦	線維化とがんの発症機序		大場 真己	未来に出現する未知のウイルスの探索と予測		島田香寿美	心血管疾患に対する新規診断・治療法の実験的検討と、その医療応用に向けた研究開発	
	吉田 敏則	動物園動物、野生動物等における自然発生病変並びに病態モデル動物における分子病理学的研究		竹前 等	ハイスループットシーケンセス技術を用いた新規ウイルスゲノムの探索とそれらウイルスの性状解析		片山 泰章	犬猫における腎泌尿器および整形外科における新規治療法の開発	
	臼井 達哉	病態制御機構の解明と新規治療法の探索		石原加奈子	病原性細菌および薬剤耐性菌の感染制御に関する研究		大森啓太郎	伴侶動物に発生する免疫介在性疾患の病態、診断、治療に関する研究	
	村上 智亮	分野横断的アプローチによるアミロイドーシスの病態理解		田中 知己	家畜の繁殖障害の病態解明と新しい診断・治療・予防法の開発		皆上 大吾	動物における腫瘍細胞の増殖メカニズム解明および新規治療法の開発	
	町田 雪乃	自然発症動物腫瘍をモデルに、発癌機構の解明とヒトがんへの応用を目指す研究		遠藤なつ美	産業動物の繁殖障害における内分泌メカニズムや防除法に関する研究		濱部 理奈	伴侶動物における腫瘍疾患と心血管疾患の相互関係の検討	

* 4 令和9年3月31日退職予定。但し、指導を受ける学生は、研究指導教員を本プログラム所属教員に変更し引き続き修学が可能。

2. 学 位 授 与

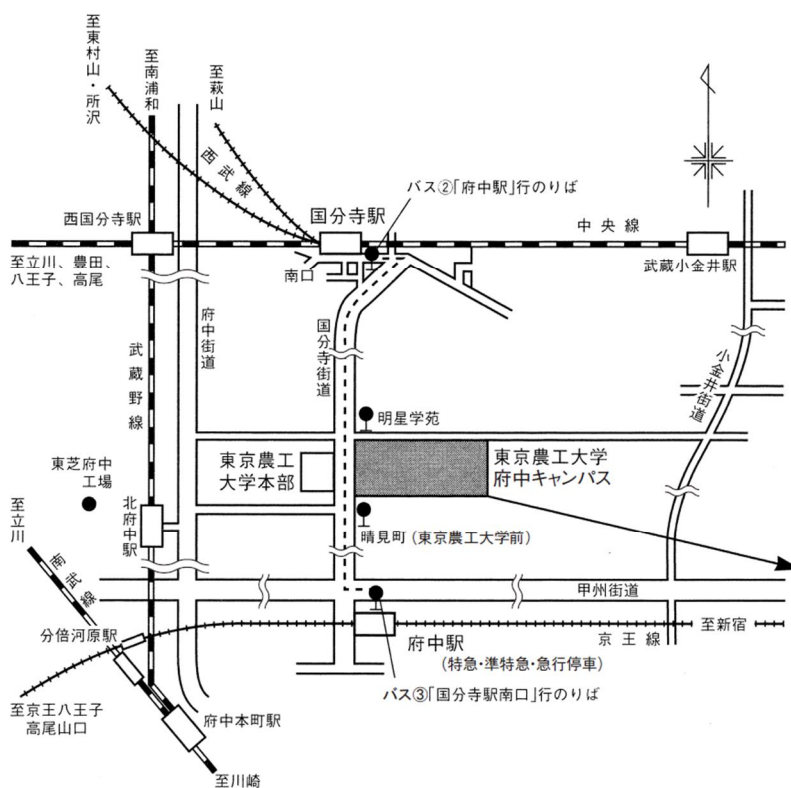
- (1) 本学大学院農学府修士課程に2年以上在学し、下記(2)に示す単位を修得し、かつ学位論文の審査及び最終試験に合格した者には、修士（農学）または修士（学術）の学位を授与します。
- (2) 学生はプログラムごとに定められた必修科目及び選択科目の単位を合わせて30単位以上修得しなければなりません。

3. 本学大学院博士課程の概要

本学には、本学府と茨城大学及び宇都宮大学の修士課程農学研究科の教員が協力して教育・研究指導を行う東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程が設置されています。

また、本学には博士前期・後期課程の5年制の工学府並びに先進学際科学府が設置されています。

4. 交 通 案 内



中央線

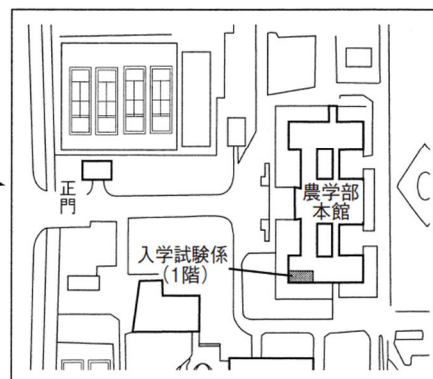
国分寺駅南口から（バス停2番乗場）
府中駅行き（明星学苑経由）バスにて
約10分、晴見町（東京農工大学前）下車

京王線

府中駅から（バス停3番乗場）国分寺
駅南口行き（明星学苑経由）バスにて
約7分、晴見町（東京農工大学前）下車

武蔵野線

北府中駅下車 徒歩約12分



〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学府中地区事務部学生支援室入学試験係
電話（直通）042-367-5659【土・日・祝日を除く午前9時～午後5時】